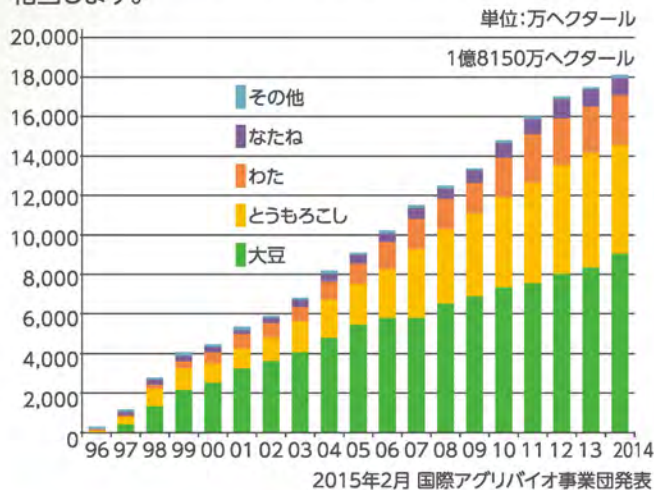


遺伝子組換え食品のお話③

遺伝子組換え作物・食品の実態

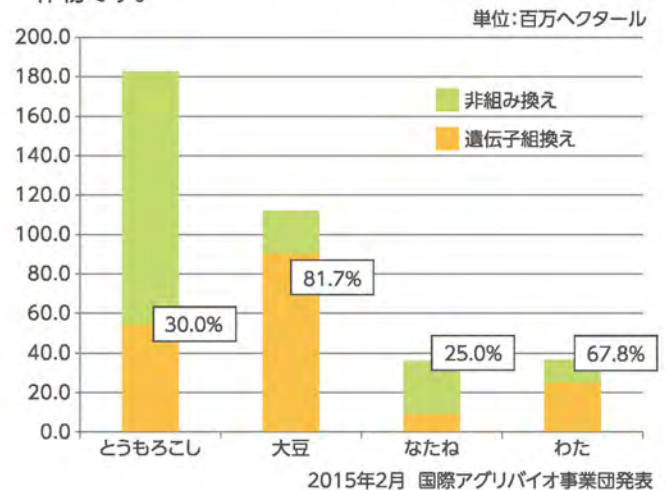
1. 世界の遺伝子組換え作物の作付面積

2014年時点で28カ国、約1億8150万ヘクタールで栽培されています。その面積は日本の国土の約4.8倍に相当します。



2. 世界の栽培面積に占める遺伝子組換え作物の割合: 2014年

世界のとうもろこしの30%、大豆の80%が遺伝子組換え作物です。



3. 日本で認可されている遺伝子組換え食品

日本で安全性が確認され、販売・流通が認められているのは、食品8作物(302品種)、添加物8種類(19品種)です。

品 種	性 質
大 豆	20 特定の除草剤で枯れない 特定の成分(オレイン酸など)を多く含む
じゃがいも	8 害虫に強い ウイルス病に強い
なたね	20 特定の除草剤で枯れない
とうもろこし	201 害虫に強い、特定の除草剤で枯れない 乾燥に強い
わ た	45 害虫に強い 特定の除草剤で枯れない
てんさい(砂糖大根)	3 特定の除草剤で枯れない
アルファルファ	4 特定の除草剤で枯れない
パパイヤ	1 ウイルス病に強い

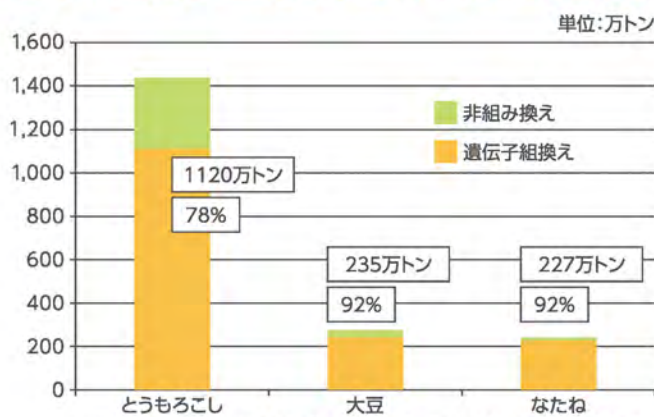
厚生労働省医薬食品局食品安全部 2015年6月1日現在

「除草剤で枯れない」や「害虫に強い」といった品種が主流でしたが、「栄養価が高い」とか「花粉症を和らげる」といった消費者が直接メリットを感じられるものの開発もすすんでいます。また、東日本大震災後は、塩害に強い品種の開発の動きなどもあります。

日本では、食用目的の商業栽培は行われていません。(青いバラだけがハウス栽培されています)



4. 日本の遺伝子組換え作物の年間輸入量(推定)



国別の輸入量と国別の遺伝子組換え品種比率からの推定では、輸入されているとうもろこしの約78%、大豆の約92%が遺伝子組換え品種ということになります。

輸入された遺伝子組換え作物の大半は、コーン油やダイズ油などの食用油、しょうゆ、コーンスターチ(でんぷん)に加工されたり、家畜の飼料になっています。

*食用油やしょうゆは、製造過程でタンパク質が分解され、遺伝子組換え作物を使ったかどうか判別がつかないので、表示義務がありません。

この後の「お話」の予定

10月 「安全性について」

11月 「いずみ市民生協の考え方ととりくみ」